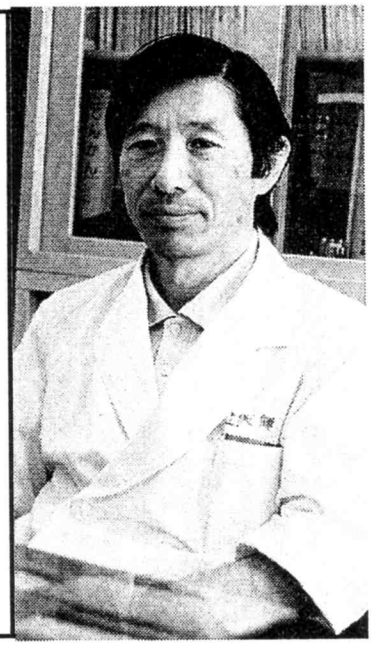
ドクター出張です

てんかん

小学二年の娘は時々放心したような状態になり、呼び掛けても反応しないことがあります。歩いている時に突然立ち止まり、数秒間ぼう然と立ち尽くしていることもあります。本人に自覚はないようです。てんかん発作の一種だと聞きますが、どういう病気なのか詳しく教えてください。

（39歳・女性）

意識が途切れる欠神発作も
規則正しい投薬で7割予防



石原　修さん　県立中央病院　神経内科主任医長

―病気の特徴、原因は。

「てんかんは、大脳の神経細胞が過剰に興奮したことにより起こるもので、発作性の症状（てんかん発作）を繰り返すのが特徴です。例えば頭部外傷を受けた後に一回けいれん発作を起こしたとしても、てんかんとは言えません。有病率は百―二百人に一人と高率です。二十歳までに発症するケースが最も多く、年配者では脳こうそくなど脳の障害が原因で起こることもあります。てんかんは、推定される病因の有無や、発作が脳のどの部分から始まっているかで四つに分類されます。まず、片側の大脳半球のごく限られた部分の興奮により起こる部分性と、大脳の両半球全体から同時に始まった興奮に由来する全般性とに分けられます。さらにそれぞれ、脳に何らかの病因（損傷）が見つかったり、病因が推定される症候性と、原因不明で起こる特発性とがあります。しかし病歴や脳の画像を診断にみられる部分発作と、全般てんかんにみられる全般発作とがあります。部分発作は、大脳のどこでがチカチカする、側頭葉だとそれまでの行動とは全く関係のない、意味のない行動を繰り返したりします。一部で始まった脳の興奮が全体に広がっていくと、部分発作から全身のけいれんに進展することもあります。部分発作だと、意識が保たれていて発作の始まりを自覚で興奮が起こったかによりさまざまな症状を呈します。例えば、上肢をつかさどる運動中枢に起これば手がけいれんし、視覚中枢なら目違うのですか。

「いろいろな発作型がありますが、大きく分けて、部分てんかんります」

―全般発作の場合は。

「前触れを感じることなく突然起こるもので、こちらにもいくつか型があります。最もよく知られているのが強直間代発作で、突然意識を失って倒れ、初めは全身を硬くし、続いて手足をがくがく震わせる激しいけいれんが起こります。発作中は呼吸も停止するため、顔が紫色になり、だ液が口の中にたまります。たまっただ液は息を吹き返した時に外へ吹き出るため、泡を吹くというイメージがあるのですが、これに特別な意味はありません。本人は発作を全く覚えていず、意識回復後は睡眠に移行することが多いですね。発作は数十秒から数分で治まるのが普通です。それ以上続いたり、絶え間ない傾向はありますが、治りやすいものが多いですね。遺伝の関与が薄いものも多くあります」

―発作を起こしやすくする要因は。

「極端な睡眠不足や大量のアルコール摂取などです。また反射性

「数秒間ふっと意識が途切れる欠神発作があります。発作中は動作が止まり、放心しているように見えます。本人に自覚はありません。また意識はしっかりしているのに、体の一部がピクンとするミオクロニー発作などもあります」

―診断基準は。

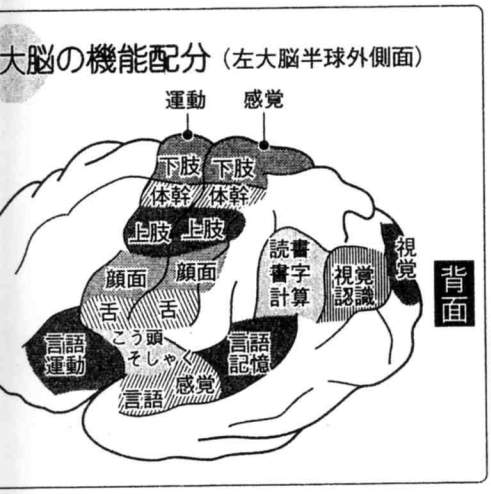
「発作を繰り返すことと脳波が決め手となります。脳波検査では、約八割の人にてんかんに特徴的な波型が現れます。CTやMRIなどで脳の疾患を見つけることも大事です」

―治療法は。

「薬で発作をコントロールしながら、発作を起こす力がなくなるのを待ちます。薬は発作型で違います。発作の様子や脳波検査から発作型を特定し、その型に有効な薬を、適切な血中濃度が維持できる量で服用します。そのため、患者は決められた量を正確な時間に規則正しく服用する習慣を付けることが必要です。約七割が、薬で発作を予防することができます。治療によって発作が数年間治まり、脳波の異常もなくなったら、薬を少しずつ減らし、やがて中止します」

―遺伝と関係ありますか。

「特発性てんかんに遺伝性が高い傾向はありますが、治りやすいものが多いですね。遺伝の関与が薄いものも多くあります」

―発作を起こしやすくする要因は。

「極端な睡眠不足や大量のアルコール摂取などです。また反射性